



同好会ひろば

第 289 号
R3. 1 2. 17
No.4

今年度研究の集大成！小中合同研究発表会

小学校部会及び中学校部会では、全中社研名古屋大会を見据え、『人間の生き方を問い続ける社会科学習～「多様化する社会」を生きる子どもを育てる授業の追究～』を研究主題とし、小学校部会と中学校部会が連携をとりながら研究を進めてきました。1月14日の研究発表会では、今年度研究の成果と課題を発表します。また、発表後には、今年度の実践を通して身に付いてきた力や、中学校で実践するにあたり小学校で身に付けておいてほしい力など、小学校、中学校の参加者が合同で情報交換・協議をします。これにより、令和4年度に開催される全中社研名古屋大会に向けて小・中の連携及び大会テーマへの理解を深めていきます。

今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、Zoomにて研究発表を行いますので、多くの会員の方々に気軽に参加していただきたいと思ひます。また「同好会ひろば」や「あゆみ」を通じて、今年度研究の成果と課題を広く共有していきたく思ひます。

なお、今年度、小学校部会及び中学校部会での目指した子どもの姿は以下の通りです。

地理グループ 第5学年 単元名「自然災害を防ぐ」(7時間完了)

自然災害の被害を防ぐために、災害対策の重点を踏まえた根拠を基にして、他の災害地域の対策を取り入れて今後必要となる災害対策を考えることができる子どもを目指しました。

歴史グループ 第6学年 単元名「江戸幕府と政治の安定」(7時間完了)

江戸幕府の政策が、幕府・大名・百姓の三つの立場に与えた影響とつなげて、江戸幕府が滅びた後の世の中がどのようになるのかを考えることができる子どもを目指しました。

現代社会グループ 第5学年 単元名「自動車をつくる工業」(9時間完了)

「消費者や社会のニーズ」を踏まえて、「生産者の取組」について、自動車工業が今後どのように発展していくのか、自分の考えを表現することができる子どもを目指しました。

地理的分野 第1学年 単元名「世界の諸地域～アフリカ州～」(7時間完了)

「ナカラ回廊開発」がアフリカの人々のよりよい暮らしを達成できるのかについて、異なる立場の人々の営みや意見を踏まえて、考えをまとめることができる子どもを目指しました。

歴史的分野 第1学年 単元名「元寇と鎌倉幕府の滅亡」(7時間完了)

北条時宗の決断が社会に与えた影響について、先人の思いや願いをもとに考えることを通して、よりよい社会の実現に向けて自分の生き方を問い続けることができる子どもを目指しました。

公民的分野 第3学年 単元名「地方自治と私たち」(7時間完了)

「名古屋市総合計画2023」の重点政策の中から、どの戦略に優先的に取り組むのかを学習課題として設定・追究し、他者と話し合うことを通して、互いの考えの共通点や相違点を整理しながらよりよい考えを導くことができる子どもを目指しました。

【第289号 紙面】

小・中部会研究発表会	(p 1)
訪問インタビュー 本部 鉄男先生	(p 2・3)
フィールドワーク活動報告	(p 4)
全国中学校社会科研究大会名古屋大会について	(p 5)
授業づくり講座について・今後の予定	(p 6)

訪問インタビュー

本部 鉄男 先生



昭和 57 年、名古屋市立岩塚小学校に着任。以降、千音寺小、神丘中、白鳥小を経て、西築地小校長に。その後、学校保健課主任指導主事を務められ、昭和橋小校長、鳴海小校長を歴任されました。

現在は、名古屋市市政資料館 専門調査員としてご活躍されています。

名古屋市の社会科教育を発展させるため、社会科研究会庶務、名古屋市立小中学校長会の社会科部会会計、副部長、会長などを歴任された本部鉄男先生。先生の豊富なご経験を基に、今後の同好会活動を充実させるための貴重なお話を伺いました。

同好会との出会い

新卒以来、学級経営と部活動で手いっぱい、同好会活動にもほとんど参加せず迎えた5年目研修(教職経験者研修)では、当然のようにうまくはいきませんでした。しかし、この時にご指導いただいた社会科教師の先輩や仲間たちと一緒に勉強したことが、私の社会科との出会いだったと今になって思います。

研究にまつわるエピソード

私は、30代半ばからほぼ10年近く組合活動に関わり、残念ながら研究員の経験はありません。「社会科同好会」では、新卒2校目の教職7年目から11年目まで、各学年の研究部員やフィールドワークの担当の仕事をしていただきました。ですから、本格的に社会科の実践(研究)に取り組んだのはこの5年間ということになります。また、この間平成2年度には、「全小社研名古屋大会」が開催され、5年部会推進部員として栄小中学校での授業に関わらせていただきました。並行して、自分たちの実践にかかわる教材研究も徹底して行いました。当時は、資料、とりわけ実物資料にこだわっていたと記憶しています。単元は「伝統的な技術を生かした工業」で常滑焼を取り上げました。伝統的な技術の工夫に気付かせるために、実際に常滑焼の体験をさせたいと意気込み、土から子どもたちに焼き物の体験をさせようと計画しました。現地の常滑まで行って職人さんに話を聞き、その後、購入した土の重さにびっくりし、車が重量に耐えられるかと心配したことも今思えば懐かしい経験でした。教材研究でいえば、今ではインターネットを中心としてかなり多くの情報が集められますが、私たちの頃は、研究部員の皆さんと、時には個人で教材研究のための取材を行うことがよくありました。そこで人の話を聞いたり、説明を受けたりして新しい発見をすることがとても楽しかったです。

若手の先生方に伝えたいこと

私自身は、ほぼ 10 年間の組合活動で多くの経験をさせていただきました。たとえば、他教科の先生方との関わりでは、自分の分からないことを相談できる人がたくさんできました。また、愛知・名古屋だけでなく全国の先生方と関わらせていただいて、改めて愛知・名古屋の教育環境のよさに気付くことができました。さらに、他職種の人たちと意見を交わすことにより、教員が普段どのように見られているのかを肌で感じることができ、対応の仕方を学ぶことができました。



若手の先生方に伝えたいことは、社会科だけとか自分の学校だけにとどまることなく、機会があれば、多くの人々と交わったり(現在はコロナ禍で状況がゆるさない時期ですが)、本を読んだり、趣味をもったりすることを通して、人生経験を広げてほしいと思います。そのことが、児童生徒や保護者と、また同僚とのコミュニケーションをとる時に何かしら生きてくると思うからです。次に、勤務する学校で誰からも好かれる(頼りにされる)先生になってほしいと思います。また、「社会科のことなら〇〇先生に聞けば大丈夫」と言われれば、さらにすばらしいと思います。最後に、社会科に関していえば、小・中学校問わず、今回の新学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」をキーワードとした新しい社会科がスタートしています。これは、必ずしも自分より先輩の方がキーワードの内容をよく理解しているということではないと思います。今こそ若手教員の皆さんが、先人たちが残してくれた財産を大切にしながらも、情報機器などをどんどん活用して「いい授業」づくりに臨んでほしいと思います。

現在の教育現場に感じること

コロナ禍という今まで誰も経験したことのない状況で、奮闘する学校現場の皆さんに敬意を表します。子どもたちをコロナに感染させないとともに、自分自身もコロナに感染しないように教育活動を進めることは大変なことだと思います。学校行事一つとっても、新しいスタイルの進め方が考えられているようです。言い換えれば、先輩、後輩、ベテラン、若手の区別なく、それぞれがいいと思った考えを述べる雰囲気職場であれば、現下の状況を乗り切っていけるのではないのでしょうか。コロナ禍の状況下でも、多くの子どもたちは、先生たちを信頼し言葉を待っています。学校現場の皆で考え、自信をもって子どもたちと接してほしいと思います。学校現場の皆さんに期待しています。



フィールドワーク活動報告

令和3年度のフィールドワークは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、推進グループごとに見学先を決め、推進グループのメンバーのみの参加としました。

小学校推進グループ(現代社会グループ)「自動運転バス見学」

8月27日、ハンドルのない未来の乗り物、自動運転バス「Nanamobi(ナナモビ)」に乗ろう!と、千種区のイオンタウン千種を訪れました。愛知県は、全国に先駆けて、2016年度から自動運転の実証実験を積み重ね、自動運転によるビジネスモデルの構築を進めているそうです。

モビリティで新たな愛知・名古屋を導くという想いで名付けられたNanamobiですが、8月18日から10月29日までの長期間にわたり、イオンタウン千種や JR 鶴舞駅を結ぶ公道を、実際に走行していました。初めて公道を走るNanamobiを見たときは、思わず大きな歓声を上げました。

ハンドルやアクセル、ブレーキペダルはおろか、運転席もない自動運転専用のEV車両は、まさに未来の乗り物でした。赤信号や一時停止を認識して止まり、危険物がある場合も自動で停止するように安全性も高く、Nanamobiのような乗り物が街を走り回る姿を思い浮かべるだけで、愛知・名古屋の未来は明るく、ワクワクしてきます。「これを教材化すれば、必ず子どもたちも目を輝かせるはず!」と、参加者も目を輝かせていました。



【自動運転バス「Nanamobi」】

小学校推進グループ(歴史グループ)「名古屋城」

8月11日に、名古屋城を訪れました。名古屋城では、名古屋城調査研究センターの学芸員(考古担当)である木村有作先生に案内をしていただきました。この名古屋城調査研究センターは、2019年4月に発足し、文献、美術品、出土遺物など、名古屋城に関連する多種多様な史料を調査研究する施設となっています。

木村先生には、最初に、名古屋城の大天守台の美しさについて教えていただきました。下方はゆるく、上に向かって急勾配になる扇勾配が、熊本城を築いた加藤清正による大天守台の石垣普請に関係していることを学びました。

次に、石垣に刻まれた刻印について説明していただきました。文字、数字、紋様など様々な刻印が表す意味や、その刻印を印した目的などを基に、名古屋城の石垣普請に際して、多くの西国大名が関わっていたことを教えていただきました。

この他にも、名古屋城の石垣の中でも一際大きな「清正石」についても説明していただき、縦2m、横6mもの大きな巨石をどのように名古屋城まで運んできたのか、運搬方法についても研究が進められていることを教えていただきました。



【名古屋城の石垣を見学する様子】

☆ 小学校地理グループ「名古屋大学減災館」と中学校推進グループ「熱田神宮・桶狭間の戦い・徳川家康のルーツを探る旅」については、「同好会ひろば」288号で紹介させていただきました。

第 55 回全国中学校社会科研究大会名古屋大会開催まで一年を切りました！

名古屋大会実行委員長 桜丘中学校長 渡辺範人先生よりお言葉をいただきました。

早いもので、全中社研名古屋大会まで一年を切りました。名古屋で開催する社会科の全国大会は 7 回目となります。今まで実施してきた全小社研、全中社研はいずれも名古屋市社会科同好会の会員の皆様が小学校、中学校の枠を越えて一丸となって実施してきた経緯があります。他都市には見られない組織の在り方を生かして成果をあげてきました。また、過去の大会では、準備段階で、全体会や懇親会等の場で広く大会理論について提案し、ご議論いただき、いただいたご意見を参考にして大会本番につなげてきました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、準備を進める上で多くの課題克服の必要を迫りました。その結果、大会の開催日程や内容、開催方法について、根本的に見直すことになりました。今まで当たり前前に二日間開催で行ってきた大会を、実質一日での開催とし、レセプションや記念講演もなしとしました。また、富士中、沢上中、城山中を会場とした授業公開も取りやめ、大会会場をウインクあいちとしました。公開授業については、事前に撮影した授業の様子を映像で観ていただき、その様子を基に分野別の会場で研究協議する方向で準備を進めています。

大会を開催するにあたり、まだまだ課題は山積しており、今まで積み上げてきたノウハウが活かせない状況がありますが、大会に向けて粛々と準備を進めています。名古屋の社会科が築きあげてきた伝統を忘れず、来年 11 月の全中社研名古屋大会では、「人間の生き方を問いつける社会科学習」を主題に、全国に名古屋の研究を提案したいと考えています。名古屋市社会科同好会の会員及び OB の皆様のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

桜丘中学校長 渡辺 範人

大会の概要(予定)

- (1) 主 題 人間の生き方を問いつける社会科学習
～「多様化する社会」を生き抜く生徒を育てる授業の追究～
- (2) 会 場 ウインクあいち (WINC AICHI) 名古屋市中村区名駅 4 丁目 4 の 38
- (3) 日 程 令和 4 年 11 月 11 日 (金) 9:20～16:30
地理・歴史・公民的分野 提案授業・協議

第2回 授業づくり講座 9月15日(水) Zoom開催

「すぐに使える」「実際の授業をイメージできる」などの授業づくりのポイントを学ぶ「授業づくり講座」が開催されました。第1回に引き続き、第2回の授業づくり講座も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、9月15日(水)に、Zoomで開催し、たくさんの先生方にご参加いただきました。

【小学校】講師 野並小 原口 昭教 先生

テーマ

「目指せ学校のエンタメプロデューサー～デジタル×アナログで新しい授業づくり～」

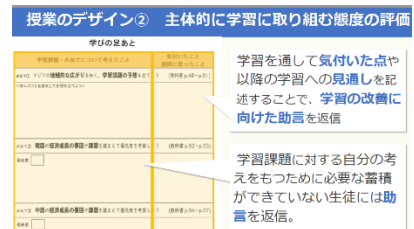
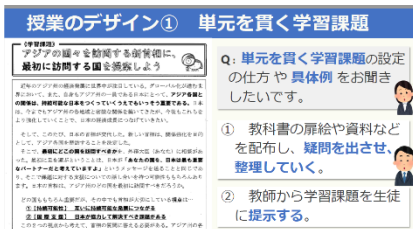
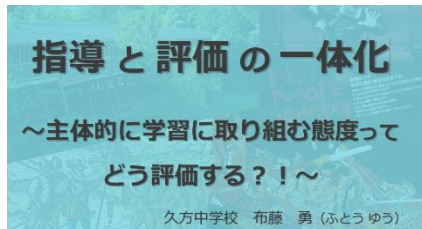
デジタルとアナログのよさを具体的な事例を基に紹介していただきました。アナログで足を使って素材を集め、そこから、デジタルを有効活用することで、よりよい授業づくりに近付けるということをおぼせていただきました。



【中学校】講師 久方中 布藤 勇 先生

テーマ「指導と評価の一体化～主体的に学習に取り組む態度ってどう評価する?!～」

新しく始まった主体的に学習に取り組む態度について、授業の構成の工夫や評価について、布藤先生の実際の取組を事例にご紹介いただきました。参加者の方々の悩みについて、互いの工夫や考えを伝え合いました。



次回の授業づくり講座は、以下の日程で実施します。ぜひご参加ください。

開催日	講師
1月25日(火)	南 勇希先生 (鳴子小学校) 「社会科授業のいろは」 久々野 将広先生 (志段味中学校) 「単元を貫く学習課題と対話的な学びって何？」

～今後の予定～

- 1月14日(金) 19:00～ 小中合同研究発表会 (Zoom開催)
- 1月25日(火) 19:00～ 第3回授業づくり講座 (Zoom開催)
- 1月28日(金) 19:00～ 第3回ステップアップ全体会・授業力アップ研修全体会 (Zoom開催)
- 2月10日(木) 19:00～ 全体会 (Zoom開催)